

瀬戸履物店

瀬戸氏の生家である瀬戸^{はきもの}履物店は、現在の野々市市本町二丁目の旧北国街道沿いの通りで、大正 14 年（1925）頃から昭和末期まで営業をしていました。瀬戸家の解体に伴って寄付された資料からは、大正から昭和初期までの出入金の記録や、下駄に使う板等の材料の仕入れの記録などがありました。

また、爪^{つまがけ}掛と呼ばれる雨雪の際に下駄に掛けるゴム製のカバーの販売店であることを示す大看板も残っており、往時の街道沿いの商店街の様子が思い起こされます。



解体前の瀬戸家（令和 4 年撮影）



野々市町制 30 周年記念時。

手前に写る建物が瀬戸履物店です（昭和 28 年）